

平成24年6月定例理事会議事録

社団法人 如水会
理事長 松本正義

平成24年6月18日（月曜日）、東京都千代田区一ツ橋2-1-1如水会ビルディング3階、如水会館「桜の間」において、定例理事会を開催した。

出席者	理事長	松本正義(昭42法)		
	副理事長	上田良一(昭48法)		
	理事	山内 進(昭47法)	岡田円治(昭48経)	伊藤純一(昭50商)
		太田道彦(昭50商)	谷本道久(昭52商)	大庭雅志(昭53法)
		古谷昌彦(昭55商)	小川英治(昭56商)	小野澤康夫(昭56商)
		引頭麻実(昭60法)	岡 俊子(昭61社)	大塚久美子(平3経)
		関 統造(昭41社)		
	監事	山下 実(昭57商)	片桐春美(平5社)	深田豊大(平6商)
		浦部明子(平10法)		
	評議員			
	会長	石坂芳男(昭38法)		
	副会長	相原桂一郎(昭40商)		

以上 21 名

委任状提出理事

理事	大前孝雄(昭48経)	岩本 保(昭49法)	松井道夫(昭51経)
	樫尾昭彦(昭52商)	田内直子(平1商)	

17時30分、関統造理事・事務局長より、「出席理事は15名、委任状提出理事5名を加えて合計20名であり、定足数の14名を満たし、理事会は成立する」旨の報告があり、議長席の松本正義理事長が開会を宣した。

議 事

1. 理事・監事 自己紹介

議長を始め、出席した理事及び監事が自己紹介を行った。

2. 各委員会 委員長及び委員委嘱の件

議長の指名により、関統造理事・事務局長より、委員会名簿に従い、各委員会の委員長及び委員の委嘱の件について説明があり、一同、了承した。

3. 委員会報告

議長の指名により、以下の委員会から報告が行われた。

(1) 総務委員会

上田良一理事（総務委員会委員長）より、平成 24 年 6 月 12 日に書面により開催された総務委員会について、別紙議案書の（1）総務委員会に基づき報告があり、一同、了承した。

(2) 組織強化委員会

所用のためご欠席の松井道夫理事（組織強化委員会委員長）に代わり、引頭麻実理事（組織強化委員会委員）より、平成 24 年 6 月 13 日に開催された組織強化委員会について、別紙議案書の（2）組織強化委員会に基づき報告があり、一同、了承した。

(3) 研修文化委員会

所用のためご欠席の岩本保理事（研修文化委員会委員長）に代わり、大庭雅志理事（研修文化委員会委員）より、平成 24 年 6 月 15 日に開催された研修文化委員会について、別紙議案書の（3）研修文化委員会に基づき報告があり、一同、了承した。

4. 一橋大学基金支援会

関統造理事・事務局長より、「本日、支援会幹事会が開かれたが、申込金額は 52 億円少しを越えたところで、卒業生の申込人数は 8,629 人であり、目標の 1 万人には、1,400 人の上乗せが必要である」旨の報告があり、一同、了承した。

5. 一般承認事項

関統造理事・事務局長より、以下の報告があり、議長が議場に諮ったところ、承認された。

(1) 入会・退会の件 （5月中）

◎ 入 会			
卒業生	29 名		70 名
学 生	31 名		576 名
	計 60 名	累 計	646 名
◎ 退 会			14 名

◎ 死亡退会	27 名
◎ 5 月末現在会員数	
卒業生	31,240 名
学 生	2,647 名
合 計	33,887 名

6. 一般報告事項

関統造理事・事務局長より、以下の報告があり、一同、了承した。

(1) 支部長交代の件

多摩北支部

(新) 吉田 佑一 (昭 41 社) (株) ビアン
(旧) 白石 武夫 (昭 35 法)

岐阜県支部

(新) 高井 紘司 (昭 40 経) (株) 亀山鉄工所
(旧) 佐藤 孝一 (昭 34 商) アジア原紙(株)

船橋支部

(新) 大岡 秀次郎 (昭 39 法) (株) 東京デリカ
(旧) 遠藤 幸男 (昭 35 商)

ホーチミン支部

(新) 山下 眞毅 (昭 59 経) (株) 三菱東京 UFJ 銀行
(旧) 横溝 宗親 (昭 57 商) キリンビバレッジ(株)

(2) 今後の予定

7 月定例理事会	7 月 30 日 (月)	午後 5 時 30 分
9 月定例理事会	9 月 24 日 (月)	午後 5 時 30 分
10 月定例理事会	10 月 29 日 (月)	午後 5 時 30 分
11 月定例理事会	11 月 26 日 (月)	午後 5 時 30 分
12 月定例理事会	12 月 19 日 (水)	午後 5 時 30 分

議長は、以上をもって予定された議事を終了した旨を述べ、他に報告すべきことがないか、議場に諮ったが、ないため、18 時 23 分、閉会を宣した。

(1)総務委員会

1. 日 時 平成 24 年 6 月 12 日(火) (書面による開催)
2. 出席者 上田委員長、伊藤委員、大塚委員、加藤委員
事務局 関事務局長、田村総務部長
3. 議 題 (1) 事務局の組織改正について
(2) 組織規程の制定について
(3) 部長の司掌変更と新部長の任用について

4. 報告内容

(1) 事務局の組織改正について

① 改正理由

- ・平成 18 年より一橋大学在学学生に対して導入された「32 歳までの会員」が大量に 32 歳を迎える時期が迫っており、入会継続等の対策を早急に立てる必要があること、また、平成 25 年 4 月に移行予定の一般社団法人において導入される代議員制と代議員選挙及び卒年から入学年への年次変更への対応が求められることから、年度会への支援をより強化するため、総務部会員情報グループと業務部業務グループが今まで以上に連携できる体制とする。
- ・部の垣根を外し、事務局全体で、横断的に業務を遂行する体制とする。

② 改正内容

- ・3 部制（総務部、業務部、会館部）及び各部長の呼称（総務部長、業務部長、会館部長）を廃止する。
- ・部長は事務局長の命を受け、管掌する業務を処理する。当面の間、2 名体制とする。
- ・会員情報グループは会員の情報管理が主ではあるが、会員支援の割合を高めるので、会員グループに改称する。
- ・業務グループからは、既に昨年、総会・理事会関連業務が総務経理グループに移管しており、如水会の各種事業を司ることから、事業グループに改称する。
- ・一人の部長が総務経理グループ及び会館運営グループを管掌し、他の部長が会員グループ、事業グループ及び広報グループを管掌する。
- ・研修文化グループは、局長直轄とする。

③ その他

- ・各グループの担務内容については、改めて整理する。
- ・会館運営グループの担務のうち、一橋クラブ運営管理と如水会館委託管理は、当面、局長直轄で 2 名の部長が補佐する。
- ・研修文化グループの担務のうち、研修文化委員会の運営及び行事の実施に関しては、事業グループが支援する。

(2) 組織規程の制定について

① 組織規程の制定

- ・組織規程を制定し、平成 20 年 1 月 15 日改正の事務局組織規程を廃止する。

② 主な変更点

- ・総務部、業務部、会館部の廃止
- ・組織としての一橋クラブ及び同クラブ支配人の記述の削除
- ・部の担務をグループの担務に変更

(3) 部長の管掌変更と新部長の任用について

① 管掌変更

- ・現総務部長は、「部長」として会館運営グループ及び総務経理グループを管掌する。
- ・新たに任用する「部長」は、会員グループ、事業グループ及び広報グループを管掌する。

② 新部長の任用

- ・次の如水会員を部長として任用し、嘱託規程に基づき、嘱託契約を締結する。

氏名：高橋忠明（昭和 25 年 10 月生まれ、61 歳）

履歴：

昭和 49 年 3 月

一橋大学商学部卒業

昭和 49 年 4 月

日本航空(株)入社

平成15年4月
平成20年7月
平成22年10月
平成24年4月

日本アジア航空(株) (平成19年6月取締役)
JAL生活協同組合理事長
(株)ジャパンビバレッジホールディングス顧問 (現職)
(公財)一橋大学後援会評議員

③ その他

- ・指揮命令系統は、必ずしも管掌部長にない。
- ・事務局長の命を受け、事務局全体で業務を遂行する。

以上、実施日はいずれも平成24年7月1日とする。

以 上

(2)組織強化委員会

平成24年6月13日開催

1. 「如水エル」の活動報告

如水会で支援している女子学生の団体「如水エル」(OG、女子学生のキャリアアップのサポート)と如水会館の共同企画で「女子会」を開催した。

平成24年6月8日(金) 18:30～ 如水会館「松風の間」

OG18名、学生28名が参加し、会場を婚礼披露宴仕様にあつらえ、如水会館から婚礼料理の提供、婚礼営業の説明のあと、海外で活躍している外部女性講師による講演を行い、テーブル毎のディスカッションを行った。大いに盛り上がり如水会の組織強化にも貢献した。

2. 「平成卒業生の会」の活動報告

(1) 東京の「平成の会」では、井上永徳新会長(H14)より、平成の卒業生が如水会員の半数を占める様になり、今後は如水会と一体となり行事の企画やサポートをしたいとの活動方針が示され了承された。

(2) 名古屋の「平成の会」の今年度の活動計画

7月28日、名古屋如水会ビアパーティー、9月29日、第7回名古屋平成卒業生の集い
12月12日、忘年会

(3) 大阪の「平成の会」の今年度の活動計画

自己研鑽塾4回開催(5、11、12月、平成25年3月)

3. 母校運動部・文化部海外遠征助成に付き、下記3件の申請を審議した

1) 空手道部： 交流先： タイ、チュラロンコン大学

時期： 平成24年8月下旬

参加人数：学生25名

概算費用：3,900千円

大学からの推薦に基づき、総費用の30%(100万円を限度)を助成したい。

2) フィールドホッケー部： 交流先： 韓国、ソウル国立大学

時期： 平成24年8月13日～16日

参加人数：学生19名、OB4名

概算費用：1,475千円

大学からの推薦に基づき、総費用の30%、443千円を助成したい。

3) 基督教青年会： 交流先： ドイツ、オーストリア(クラーツ大学)

時期： 平成24年8月19日～9月1日

参加人数：学生3名

概算費用：1,125千円

国際交流の相手が明確でなく、学生との交流が少ないこと、遠征参加者が少ないこと、観光的視察が多く、また、OBの支援が無いことなど、如水会の助成のガイドラインに照らし、このままでは認められず、再検討を要請する。

4. 寮歌祭

従来参加していた「日本寮歌祭」は、平成22年の第50回を節目に最終回を迎え、如水会は「東京校歌祭」に東大と共に招待校として参加しているが、昨年は「日本寮歌祭」参加校の一部が「中央寮歌祭」を立ち上げ、今年になり「寮歌振興会」が創設されている。如水会としては、日本寮歌祭終了時に決めた通り、「東京校歌祭」への参加を継続していくこととする。今年、慶応大学、早稲田大学も招待校となった。

以上

(3)研修文化委員会

1. 日 時 平成 24 年 6 月 15 日（金）18 時～20 時

2. 場 所 3 階「武蔵野」

3. 出席者 岩本委員長、岡田理事、大庭理事、田内理事、落合委員、加藤監事
（事務局） 関事務局長、酒井、野村、匹田

計 10 名

4. 議題及び報告内容

(1) 新委員（理事）の自己紹介

岩本委員長、岡田理事、大庭理事

(2) 新委員に対する研修文化委員会の担当業務の説明

(3) 如水会講演会

平成 25 年の新春展望は、岡田理事のご協力で、再度竹中平蔵氏の内諾を得た。

(4) 大学のアカデミアシリーズ

国際化の一環として、本年度よりソウルで開催することが決定し、ソウル支部、韓国総同窓会が協力する。それに伴い従来年 2 回開催していた関西アカデミアは年 1 回とする。平成 24 年は、下記が開催される。

3 月 3 日 関西アカデミア（大阪）実施済み

9 月 20 日 ソウルアカデミア（ソウル）

12 月 1 日 中部アカデミア（名古屋）

(5) 第 9 回日韓次世代学術フォーラム（資料添付）

今回は一橋大学が主管、国立で開催される。6 月 30 日東プラザ 2 階で開催されるリセプションに飲み物代支援（約 10 万円）。

(6) 一橋大学コラボレーション・センター設立（資料添付）

初期基金として 1,000 万円拠出。数年で返却される。返却計画は大学が作成中。

(7) 派遣留学奨学金

順調に派遣留学生の数が増加傾向にある。大学の計画通り、平成 25 年 70 名、26 年 80 名、27 年 90 名が実現すると、フルペイベースでは従来通りの支援では、27 年に資金が破綻する。その対策として、

①資金の増額を図る

②フルペイを止め一部支援とする

③フルペイを維持し人数を制限する

など早めに方針を決める必要がある。26 年度の募集を開始するまで、即ち 9 月中旬までに大学と基本方針を詰める。

以上

(1) 目的

一橋大学と緊密な連携を保ち、産学連携により、独創的な知的・文化的資産を開発し、社会に貢献するとともに一橋大学の名声を高める。

(実質的には) エグゼクティブセミナーなどにより、高度な教育提供により得た報酬を大学に寄付する。

(事業内容)

- ・ 高度職業人の教育研修
- ・ 経営等の研究の受託および共同研究
- ・ シンポジウムおよびコンファレンスの企画・開催
- ・ 出版

(2) 組織 (職員以外は無報酬)

- ① 社員 山内 進、大芝 亮、落合一泰
- ② 代表理事 小川栄治
常務理事 沼上 幹
理事 蓼沼宏一、山部俊文、村田光二、糟谷啓介、菅野 寛、
浅子和美、松井道夫、関 統造
監事 鹿島かおる、石黒美幸
- ③ 事務局長 1名、事務職 1名

(3) 設立行程

- ① 登記 7月
- ② 設立社員総会 8月
- ③ 最初の理事会 8-9月
- ④ 営業開始 9月

(4) 事業予算等

- ① 事業運営費 概算 850万円/年
- ② 初年度収入 3,000万円
- ③ 初年度利益 1,000万円
 - ・ Executive seminar(実施中)
 - ・ 広島県幹部セミナー (交渉中)

(5) 基金および財産

- ① 当初の基金 1,000万円 (如水会に拠出依頼) 数年で返却
- ② 会費、寄付、事業収入、その他収入